

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業
 経常事務事業
 建設事務事業

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有 まつりの意義、内容、運営方法などについて全体的な見直しを図る
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	豊明夏まつり開催事業							
1-2 担当	部	市民部	課 又は施設	市民協働課	係	市民活動推進係	評価票作成者	市民活動振興担当係長 浜島吉孝
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	観光	コード	3 3 4
	項	産業振興			単位施策(中)	イベントの推進	コード	3 3 4 2
					単位施策(小)	まつりの充実	コード	3 3 4 2 1
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	全市民	意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)		地域社会における連帯感の薄れや地域活動への参加者の偏りが深刻化する中、まつりをとおして、市民のあいだの親近感、連帯感を醸成し顔の見える地域コミュニティを形成すると同時に、まちに活力をもたらし、ふるさと意識の向上させる市民の交流や活動の場とする。			
1-5 事務事業の内容	運営費の一部として補助金の交付および事業PRの実施							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	平成18年度	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み 主催団体である実行委員会との連絡を密にしてスムーズな開催に努めた。	社会状況等の事務事業がおかれる環境把握 地域社会における連帯感が薄れている中、市民の交流・活動の場として市民まつりの果たす役割は大きい。	市民ニーズの認識 夏のイベントとして、多数の市民が参加し、市民の期待も大きく、市外からも多数の来場があることからニーズは大きいと考える。
	平成19年度			
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	来場者数		45,000(人)	50,000(人)	会場来場者及び会場周辺で花火を見学する者の数

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(人)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	44,000									
	人件費 c(千円)	4,650									
	合計コスト d(b+c)(千円)	160									
	単位コスト d/a(千円)	4,810									
	来場者当たり d/a(千円)	0.109	当たり								

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 会場来場者及び会場周辺で花火を見学する者の数
人件費 3200円×10日×5時間=160千円

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2 - 4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績(単位)	44,000(人)									
	後期目標値に対する達成度(%)	88.0(%)									

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果(アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		A									

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当

- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容		今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	地域における連帯感を醸成し、協働のまちづくりの一環として自発的に同じ目標に向かい活動する場として今後も市民主体の運営を続ける必要がある。	秋まつりが行政主導となっているのに対し、夏まつりは市民主体の運営となっていることから、相互に連携をとりながら秋まつりへの相乗効果を狙う。	市民が自らまつりの企画・立案に参加し、行政が側面的支援を行う形態となっており、協賛金により市からの補助金以上の事業規模となっていることから評価できる。
	平成19年度			
	平成20年度			
	平成21年度			
	平成22年度			
	平成23年度			
	平成24年度			
	平成25年度			
	平成26年度			
	平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度 平成19年度 平成20年度 平成21年度 平成22年度 平成23年度 平成24年度 平成25年度 平成26年度 平成27年度	平成18年度	A	継続して事業を進めること。
	平成19年度		
	平成20年度		
	平成21年度		
	平成22年度		
	平成23年度		
	平成24年度		
	平成25年度		
	平成26年度		
	平成27年度		